

令和3年度 全国学力調査分析 小松川第二中学校〈国語〉

1. 結果の概要

カテゴリー 内容(観点)	問題番号	設問項目	都平均 (%)	全国平均 (%)	本校平均 (%)
話すこと・ 聞くこと	1一	話し合いでの司会の発言の役割について説明したものとして適切なものを選択する	91.5	89.7	87.8
	1二	話し合いでの発言について説明したものとして適切なものを選択する	93.3	92.5	95.9
	1三	参加者の誰がどのようなことについて発言するとよいかと、そのように考えた理由を書く	60.9	57.1	60.5
	話すこと・聞くこと			81.9	79.767
書くこと	2一	意見文の下書きを直した意図として適切なものを選択する	27.9	24.8	22.7
	2二	意見文の下書きの構成の工夫について、自分の考えを書く	77.4	74.5	77.3
	4四	事前に確かめておきたいことについて相手に失礼のないように書く	73.9	71.9	67.4
	書くこと			59.733	57.067
読むこと	3一	「呼吸をのみこんだ」の意味として適切なものを選択する	49.1	43.7	40.1
	3二	「喝采してやる」と「とった」のそれぞれについて、だれの動作なのかを選択する	62.2	58.7	55.8
	3三	「反対の結果を呈出した」について、このことが分かる「黒」の様子を文章の中から抜き出す	74.1	71	67.4
	3四	「吾輩」が「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしているかや、そのような接し方をどう思うかを	24.7	20.5	24.4
	読むこと			52.525	48.475
伝統的な 言語文化と国語 の特質に 関する事 項	4一①	漢字を読む(伸ばして)	97.1	97.5	95.3
	4一②	漢字を読む(詳細)	90.2	88.8	86.6
	4二	「随時」の意味として適切なものを選択する	78	74	76.2
	4三	「行く」を適切な敬語に書き直し、その敬語の種類として適切なものを選択する	39.1	40.3	27.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			76.1	75.15

2. 結果に対する課題と改善策

〈カテゴリー内容(観点)別の結果の課題と改善策〉

○話すこと・聞くこと

カテゴリー全体では、全国平均を上回ったが、都平均を下回った。今年度は特に、「話し合いでの司会の発言の役割について説明したものとして適切なものを選択する」が課題である。論述・記述の構成に関する演習や話し合い及び発表の機会を増やす。

○書くこと

カテゴリー全体では、全国平均および都平均を下回った。特に「事前に確かめて起きたいことについて相手に失礼のないように書く」が課題である。上記カテゴリーと通ずる点があり、論述・記述の構成に関する演習が不十分と思われる。説明的文章の論理的展開を読み取る学習や作文指導、特に推敲について、より具体的に実施する。

○読むこと

カテゴリー全体では、全国平均および都平均を下回った。学校全体で朝読書など、読書指導に力を入れてきており、文章を読むことそのものへの抵抗感は低いが、そうした普段の習慣と授業での読解学習が結びついていない。今後は、さらに様々なジャンルの文章を意識して読むように指導をしていく。

○伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

カテゴリー全体では、全国平均および都平均を下回った。文脈に即した言葉の解釈、敬語が使いこなせていないものもある。様々なジャンルの文章を読む指導を増やしていく。また古典に関しても、さらに多くの作品に触れる機会を増やしていく。

【まとめ】

①既習事項定着のための工夫

文法事項や語彙力等、一度学習し獲得した能力の定着を図る。教科書のみならず、自作プリント、確認テスト等での演習を行う。また、その内容を定期テストにも出題することにより、復習する機会を与える。

②言語能力の復習、確認の徹底

国語力の基礎となる部分。既習の漢字であってもそれを使いこなせるまでには用例の反復練習が必要となる。定期的に問題演習を実施し、また、読書指導の中で語句の理解を深めさせ、言語能力の定着・向上を図る。

③個別指導の充実

書くことについての能力は、個人差が多いと感じられる。そこで論述・記述の構成を身に付けさせるためには、個々人が取り組んだものを使った添削指導が必要となる。生徒個人に合わせた具体的な個別指導をより充実させていくことで、話したり書いたりの際に効果的に伝える能力の向上を図る。